

子どもたちに **安心** **自信** **自由** を

市民活動団体と市が行う
子どもに対する暴力防止のための取り組み

問文化・市民活動促進課 ☎724・6179 問721・9907

問学校教育課 ☎724・6761 問724・6010



市民活動団体と市が協働

今年度は、市民活動団体からの企画提案をもとに市と市民活動団体が協働して行う「協働フロンティア事業」として、「ひとつぶのたね C A Pぐるーぶ」と連携し、小・中学校で「子どもに対する暴力防止プログラム(C A Pぐるーぶ)」を実施しています。子どもに対する暴力が社会問題化している現在、学校だけでなく、「地域」で子どもたちを暴力から守る環境を作ることが大切です。今回、ワークショップを実施した「ひとつぶのたね C A Pぐるーぶ」のみなさんにお話を伺いました。



(左から)「ひとつぶのたね C A Pぐるーぶ」の大栗万智子さん、松本史恵さん、野田俊枝さん

安心、自信、自由はある？

C A Pで最も伝えようとしていることは、「一人ひとり

が人権を持った人間なんだ」ということです。「子ども向けワークショップ」では、「こんなとき、安心、自信、自由はあるかな？」と寸劇を交えて考えます。

安心、自信、自由がないときは人権が侵害されているときです。人権を侵害されないように、また、他人の人権を侵害しないためにどうしたらいいのか、みんなで意見を出し合いながら、人権を尊重して、自分や相手の心や体を守る方法を学びます。

自分にはできることがある

ワークショップを受けて、学校の先生に自分のしんどい気持ちを話せたという子もいました。その子は「何か悩んでいること、嫌なことがあったら誰かに話したらいいんだ」という確信が持てたと話していました。

子どもは漠然と不安を抱えていたり、周囲に気を遣うあまり、自分の気持ちを言えなくなっていることがあります。C A Pを実施した後は、「自分の安心、自信、自由を守るために自分にもできることがあることに気が付いた」という感想をたくさんもらいました。

ます。道で危険な目に遭いそうになったとき、C A Pで習った護身術を使って逃げたという子もいました。



ワークショップのようす

そばでワークショップのようすを眺めていた学校の先生からは、「C A Pを受けた後、自分は相手に嫌な思いをさせていなかったかなど、子ども同士で相手を思いやる気付きがありました」という感想を聞きました。

子どもの気持ちを尊重し、親も楽に

「おとな向けワークショップ」を受けた保護者からは、「改めて子どもとの向き合い方を考える機会になった」、「明日から実践できそう」など、意欲的な意見をもらいました。

私たち「ひとつぶのたね C A Pぐるーぶ」のメンバーも、C A Pにかかわることで、気持ちに楽になりました。子どもに大人の思いを押しつけたりせず、子どもの力を信じ、子どもを尊重しただけのだから、と思えるようになったからです。

人権尊重は日々の生活から

「人権啓発」というと堅くて難しいイメージで考えがちですが、本当は身近にあって子どもたちにも理解できるものです。C A Pを通して、人権が大切にされるまちづくりに貢献していきたいです。

市では、市民活動団体と協働して、人権が尊重されるまちづくりに取り組んでいきます。みなさんも、身の回りを振り返り、人権について話し合ってみてはいかがでしょうか。

